

経営比較分析表（令和元年度決算）

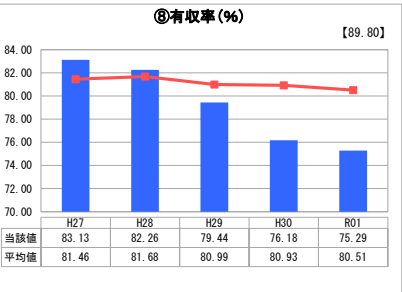
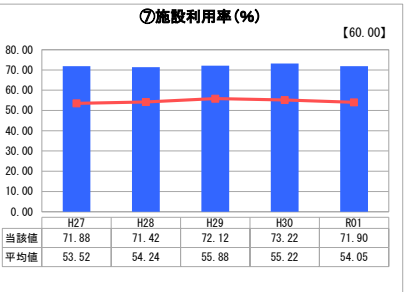
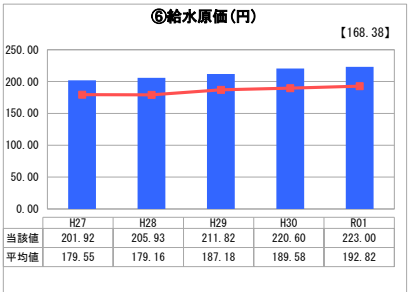
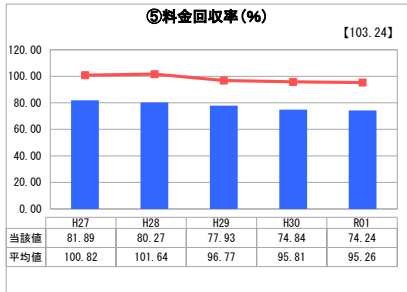
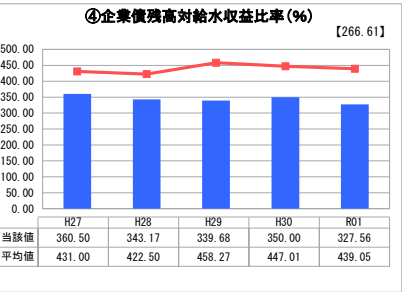
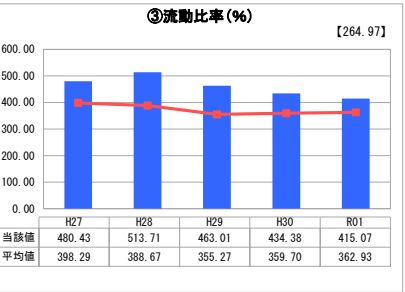
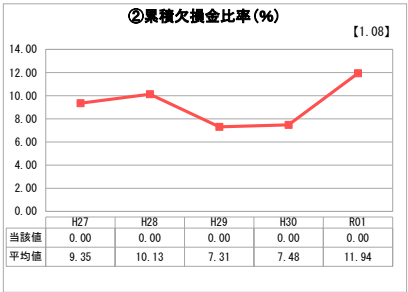
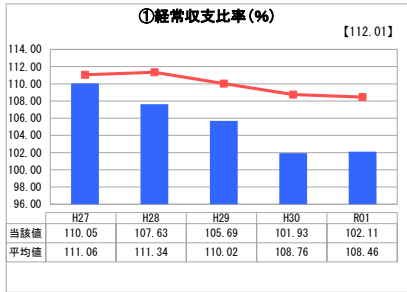
埼玉県 ときがわ町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	76.82	96.66	2,937	

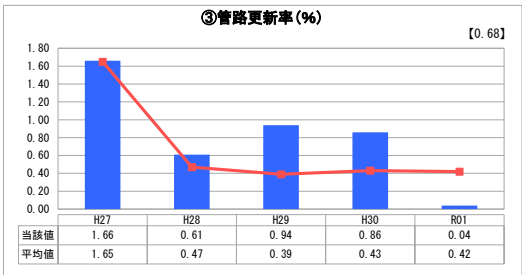
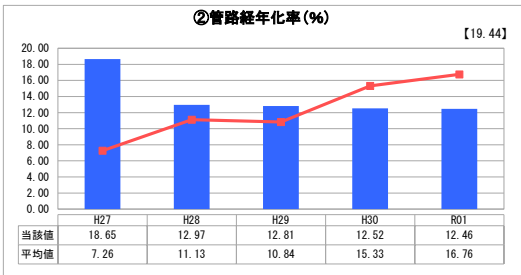
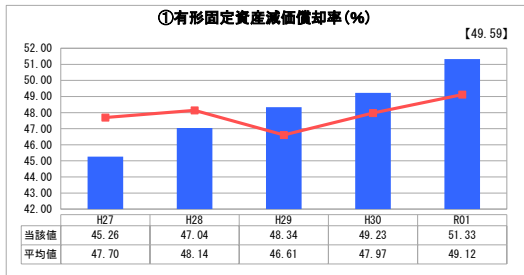
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,069	55.90	198.01
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,657	43.70	243.87

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
黒字であるが、前年度と同様に憂慮すべき状況に変わりはない。収入については、料金収入以外にも一般会計からの繰入で賄われており、その比率も高い。
- ②累積欠損金比率
累積欠損金は生じていない。
- ③流動比率
100%を大きく上回っており、支払い能力には問題は無い。
- ④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比べ低い数値となっているが、経営戦略に基づく計画的な老朽施設の更新により企業債借入額は今後増加が見込まれる。
- ⑤料金回収率
料金収入が少なく一般会計からの繰入で賄っているため、類似団体と比べ低い数値で推移している。
- ⑥給水原価
類似団体より高い数値で推移しており、かつ増加傾向である。企業債残高や、減価償却費、受水費の負担が大きな要因になっている。
- ⑦施設利用率
類似団体と比べ高い数値で推移しており、効率的な運用が図られている。
- ⑧有収率
平成27年度以降、減少が続いている。既存の方法以外の様々な方法を模索しながら、引き続き有収率向上により一層の対策を行う必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
類似団体より高い数値で推移している。今後も、経営戦略に基づく計画的な更新を進める。
- ②管路経年化率
類似団体と比べ低い数値である。石綿セメント管更新事業は完了の目途が立ったが、他の管種の更新需要が増加しているため、経営戦略に基づき計画的な更新を進める。
- ③管路更新率
当年度は、事業の繰越により一時的に減少した。

全体総括

経営規模に比して、施設の維持管理費用、また老朽施設の更新費用が多額になっており、料金収入だけでは不足するため、一般会計からの繰入により賄っている。今後の更新需要に対しても十分な財政基盤が確立されているとは言えない状況である。また有収率の向上も急務であり、漏水調査、及び漏水の可能性が高い老朽管の更新を積極的に行っていく必要がある。

平成30年度に策定した経営戦略に基づくサービス水準の維持向上、安定的・継続的な事業経営を推進していくため、ときがわ町水道審議会へ水道料金の見直し（改定）について諮問した。